



計画 ONTAP Select

NetApp
February 11, 2026

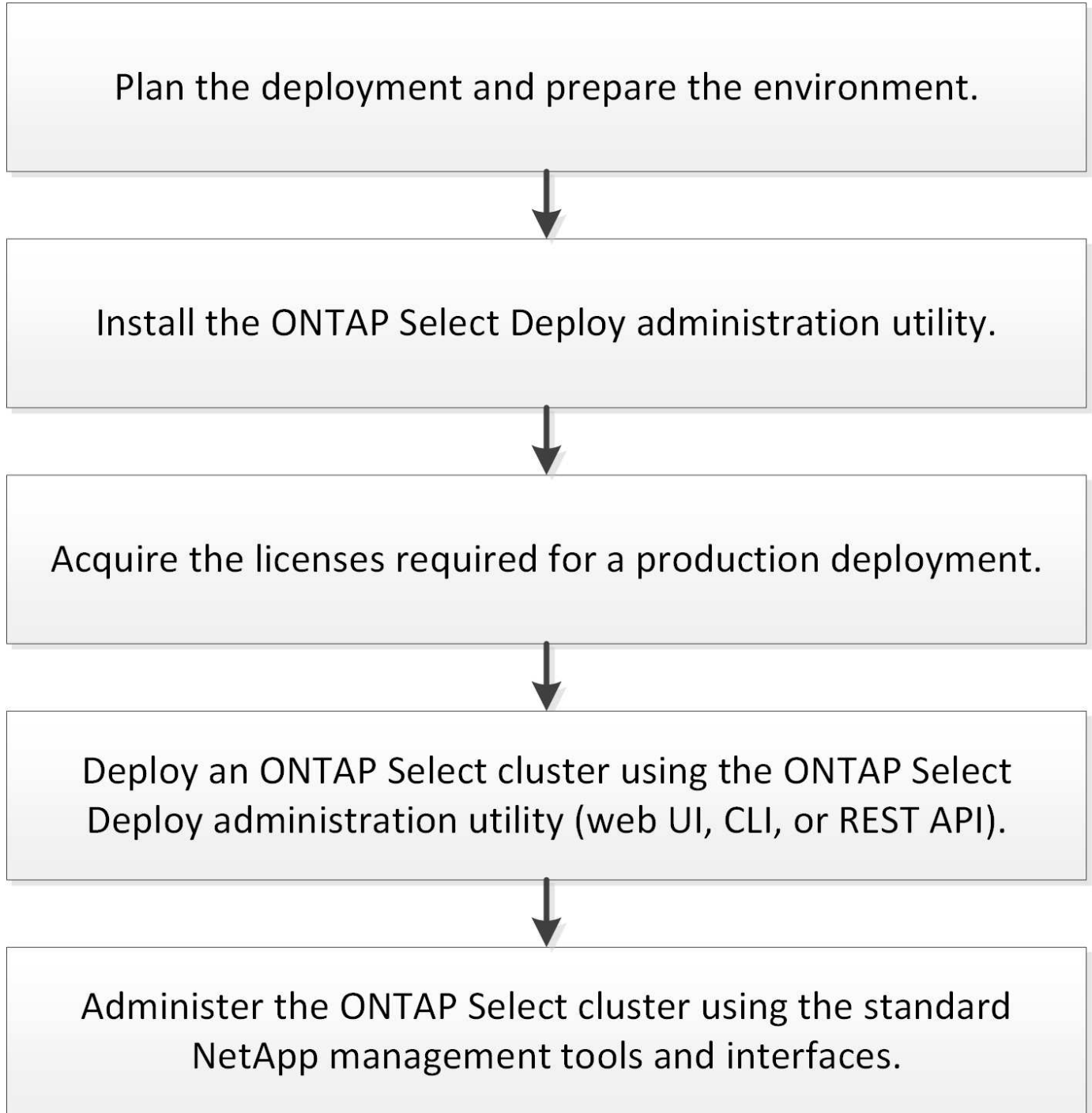
目次

計画	1
ONTAP Select のインストールと導入のワークフロー	1
ONTAP Select の場合	2
ONTAP Selectの要件と計画に関する考慮事項	2
ONTAP SelectのVMwareハイパーバイザーとハードウェアに関する考慮事項	5
ONTAP SelectストレージとRAIDに関する考慮事項	8
ガイブストレージノヨウケン	12
ONTAP Selectネットワークに関する考慮事項	14
HA 構成の ONTAP Select 2 ノードクラスター	17
ONTAP Selectのリモートオフィスとブランチオフィスへの導入	18
ONTAP Select MetroCluster SDS導入の準備	19
ESXi上のONTAP Select VMware vCenterサーバ	20
ONTAP Select 導入	21
ONTAP Select Deploy の一般的な要件と計画	21
ONTAP Select Deployハイパーバイザーホストに関する考慮事項	24
ONTAP Select導入のベストプラクティスの概要	26
ストレージ	27
ネットワーキング	28
高可用性	29

計画

ONTAP Select のインストールと導入のワークフロー

次のワークフローを使用して、ONTAP Select クラスタを導入および管理できます。



ONTAP Select の場合

ONTAP Selectの要件と計画に関する考慮事項

ONTAP Select の導入を計画する際に考慮する必要のある一般的な要件がいくつかあります。

KVMに必要なLinuxに関する知識とスキル

KVMハイパーバイザーを使用するLinuxは複雑な環境です。KVMにONTAP Selectを導入するには、必要な知識とスキルが必要です。

Linuxサーバディストリビューション

ONTAP Selectの導入に使用する特定のLinuxディストリビューションの使用経験が必要です。具体的には、次のタスクを実行できる必要があります。

- Linuxディストリビューションのインストール
- CLIを使用したシステムの設定
- ソフトウェアパッケージと依存関係を追加

必要な設定とソフトウェアパッケージを含むLinuxサーバの準備の詳細については、ホスト設定のチェックリストを参照してください。現在サポートされているLinuxディストリビューションのハイパーバイザー要件を参照してください。

KVMの導入と管理

仮想化の一般的な概念を理解しておく必要があります。また、KVM環境でのONTAP Selectのインストールおよび管理の一環として、次のLinux CLIコマンドを使用する必要があります。

- virt-install
- virsh
- lsblk
- lvs
- vgs
- pvs

ネットワークとOpen vSwitchの構成

ネットワークの概念とネットワークスイッチの設定を理解しておく必要があります。また、Open vSwitchの使用経験がある必要があります。KVM環境でのONTAP Selectネットワークの設定の一環として、次のネットワークコマンドを使用する必要があります。

- ovs-vsctl
- ip
- ip link
- systemctl

クラスタのサイズと関連する考慮事項

クラスタサイズに関連するいくつかの計画の問題について考慮する必要があります。

クラスタ内のノードの数

ONTAP Select クラスタは、1、2、4、6、8、10、または 12 個のノードで構成されます。クラスタのサイズは、アプリケーションの要件に基づいて決定する必要があります。例えば、エンタープライズ環境で HA 機能が必要な場合は、マルチノードクラスタを使用する必要があります。

専用の導入とコロケーション導入

アプリケーションタイプに基づいて、専用モデルとコロケーションモデルのどちらに従って導入を行うかを決定する必要があります。ワークロードの多様性と緊密な統合が原因で、コロケーションモデルの方が複雑になる可能性があります。

ハイパーバイザーホストに関する考慮事項

ハイパーバイザーホストに関連するいくつかの計画の問題について考慮する必要があります。



ネットアップサポートからの指示がない限り、ONTAP Select 仮想マシンの構成を直接変更しないでください。仮想マシンの設定と変更は、Deploy 管理ユーティリティからのみ実行してください。ネットアップサポートの支援なしで Deploy ユーティリティ以外の ONTAP Select 仮想マシンに変更を加えると、原因でその仮想マシンが失敗し、使用できなくなる可能性があります。

ハイパーバイザーに依存しない

ONTAP Select と ONTAP Select Deploy 管理ユーティリティは、どちらもハイパーバイザーに依存しません。両方に対して次のハイパーバイザーがサポートされています。

- VMware ESXi
- Kernel-based Virtual Machine (KVM)



ONTAP Select 9.14.1以降では、KVMハイパーバイザーのサポートが再開されました。これまでのONTAP Select 9.10.1では、KVMハイパーバイザーへの新しいクラスタの導入がサポートされなくなり、ONTAP Select 9.11.1では、オフラインへの切り替えや削除を除く既存のKVMクラスタとホストの管理がサポートされなくなりました。

サポート対象のプラットフォームの詳細については、ハイパーバイザー固有の計画情報とリリースノートを参照してください。

ONTAP Select ノードと管理ユーティリティ用のハイパーバイザー

Deploy 管理ユーティリティと ONTAP Select ノードは、どちらも仮想マシンとして実行されます。Deploy ユーティリティ用に選択したハイパーバイザーは、ONTAP Select ノード用に選択したハイパーバイザーに依存しません。この 2 つをペアリングすると、完全な柔軟性が得られます。

- VMware ESXi で実行される Deploy ユーティリティは、VMware ESXi または KVM で ONTAP Select クラスタを作成および管理できます
- KVM で実行される Deploy ユーティリティは、VMware ESXi または KVM で ONTAP Select クラスタを作成および管理できます

ホストごとに 1 つ以上の **ONTAP Select** ノードインスタンス

各 ONTAP Select ノードは専用の仮想マシンとして実行されます。同じハイパーバイザーホストに複数のノードを作成できますが、次の制限事項があります。

- 1 つの ONTAP Select クラスタの複数のノードを同じホストで実行することはできません。特定のホスト上のすべてのノードは、異なる ONTAP Select クラスタに属している必要があります。
- 外付けストレージを使用する必要があります。
- ソフトウェア RAID を使用する場合、ホストに導入できる ONTAP Select ノードは 1 つだけです。

クラスタ内のノードに対するハイパーバイザーの整合性

ONTAP Select クラスタ内のすべてのホストが、同じバージョンおよびリリースのハイパーバイザーソフトウェアで実行されている必要があります。

各ホストの物理ポートの数

各ホストで 1 つ、2 つ、または 4 つの物理ポートを使用するように設定する必要があります。ネットワークポートを柔軟に設定することもできますが、可能な場合は次の推奨事項に従う必要があります。

- シングルノードクラスタのホストには 2 つの物理ポートが必要です。
- マルチノードクラスタの各ホストには 4 つの物理ポートが必要です。

ONTAP Select と **ONTAP** ハードウェアベースのクラスタの統合

ONTAP Select ノードをハードウェアベースの ONTAP クラスタに直接追加することはできません。ただし、必要に応じて、ONTAP Select クラスタとハードウェアベースの ONTAP クラスタの間にクラスタピア関係を確立できます。

ストレージに関する考慮事項

ホストストレージに関連するいくつかの計画の問題について考慮する必要があります。

RAID タイプ

ESXi で直接接続型ストレージ（DAS）を使用する場合は、ローカルのハードウェア RAID コントローラを使用するか、ONTAP Select に付属のソフトウェア RAID 機能を使用するかを決める必要があります。ソフトウェア RAID を使用する場合は、を参照してください ["ストレージと RAID に関する考慮事項"](#) を参照してください。

ローカルストレージ

RAID コントローラが管理するローカルストレージを使用する場合は、次のことを決定する必要があります。

- 1 つ以上の RAID グループを使用するかどうか
- 1 つ以上の LUN を使用するかどうか

外付けストレージ

ONTAP Select vNAS 解決策を使用する場合は、リモートデータストアの配置場所とそのデータストアへのアクセス方法を決定する必要があります。ONTAP Select vNAS は次の構成をサポートします。

- VMware vSAN
- 汎用の外付けストレージアレイ

必要なストレージの見積り

ONTAP Select ノードに必要なストレージ容量を決定する必要があります。この情報は、ストレージ容量を含む購入ライセンスを取得する際に必要になります。詳細については、「ストレージ容量の制限」を参照してください。



ONTAP Select ストレージ容量は、ONTAP Select 仮想マシンに接続されているデータディスクの合計許容サイズに対応します。

本番環境のライセンスモデル

本番環境に導入されたONTAP Selectクラスタごとに、容量階層または容量プールのライセンスモデルを選択する必要があります。詳細については、「*License_*」セクションを参照してください。

クレデンシャルストアを使用した認証

ONTAP Select Deployクレデンシャルストアは、アカウント情報を保持するデータベースです。Deploy は、クラスタの作成と管理の一環として、アカウントのクレデンシャルを使用してホスト認証を実行します。ONTAP Select の導入計画の一環として、クレデンシャルストアがどのように使用されるかを理解しておく必要があります。



アカウント情報は、Advanced Encryption Standard (AES) 暗号化アルゴリズムとSHA-256ハッシュアルゴリズムを使用して、データベースに安全に保存されます。

クレデンシャルのタイプ

次のタイプのクレデンシャルがサポートされます。

- ホスト

host *クレデンシャルは、ONTAP SelectノードをESXiまたはKVMに直接導入する際にハイパーバイザーホストを認証するために使用します。

- vCenter

vCenter *クレデンシャルは、ホストがVMware vCenterで管理されている場合に、ESXiにONTAP Selectノードを導入する際にvCenter Serverを認証するために使用されます。

にアクセスします

クレデンシャルストアは、ハイパーバイザーホストの追加など、Deploy を使用する通常の管理タスクの実行時に内部的にアクセスされます。Deploy の Web ユーザーインターフェイスと CLI を使用して、クレデンシャルストアを直接管理することもできます。

関連情報

- ["ストレージと RAID に関する考慮事項"](#)

ONTAP SelectのVMwareハイパーバイザーとハードウェアに関する考慮事項

VMware 環境に関連するハードウェア要件と計画の問題がいくつかあります。

ハイパーバイザーの要件

ONTAP Select を実行するハイパーバイザーに関連する要件がいくつかあります。



確認すべきは["ONTAP Select リリースノート"](#)追加の既知の制限事項や制約事項については、こちらをご覧ください。

VMware ライセンス

ONTAP Select クラスタを導入するには、ONTAP Select を実行するハイパーバイザーホストの有効な VMware vSphere ライセンスが必要です。導入に適したライセンスを使用してください。

ソフトウェアの互換性

ONTAP Select は、KVM および ESXi ハイパーバイザーに導入できます。

KVM の略

ONTAP Select は、次の KVM ハイパーバイザー バージョンをサポートしています。

- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 10.1、10.0、9.7、9.6、9.5、9.4、9.2、9.1、9.0、8.8、8.7、および8.6上のKVM
- Rocky Linux 10.1、10.0、9.7、9.6、9.5、9.4、9.3、9.2、9.1、9.0、8.9、8.8、8.7、および8.6上のKVM

ESXi

ONTAP Select は、次の ESXi ハイパーバイザー バージョンをサポートしています。

- VMware ESXi 9.0
- VMware ESXi 8.0 U3
- VMware ESXi 8.0 U2
- VMware ESXi 8.0 U1 (ビルド21495797)
- VMware ESXi 8.0 GA (ビルド20513097)



VMware でも同じバージョンがサポートされていれば、特定されたバージョンの ESXi で ONTAP Select がサポートされます。



ESXi 7.0 GA は、提供終了ステータスに達しました。このバージョンの ONTAP Select クラスタを使用している場合は、["Interoperability Matrix Tool \(IMT\)"](#)。

VMware vCenter およびスタンドアロンの ESXi ホスト

ESXi ハイパーバイザーホストが vCenter サーバで管理されている場合は、vCenter のクレデンシャルを使用して、ホストを Deploy 管理ユーティリティに登録する必要があります。ESXi のクレデンシャルを使用してホストをスタンドアロンホストとして登録することはできません。

コアハードウェアの要件

ONTAP Select を導入する物理ハイパーバイザーホストが、いくつかのハードウェア要件を満たしている必要があります。ハードウェアの最小要件を満たしていれば、ハイパーバイザーホストに対して任意のプラットフォームを選択できます。サポートされているハードウェアプラットフォームは、Cisco、Dell、HP、富士通、Lenovo、と Supermicro です。



ONTAP Select 9.9.1 以降では、Intel Xeon Sandy Bridge 以降に基づく CPU モデルのみがサポートされます。

詳細については、を参照して [Interoperability Matrix Tool](#)、[window=_blank](#)ください。

基本的なハードウェア要件

ノードインスタンスのタイプやライセンスサービスに関係なく、すべてのプラットフォームに適用される共通のハードウェア要件がいくつかあります。

プロセッサ

サポートされているマイクロプロセッサには、サーバー向けIntel Xeonプロセッサが含まれます。 [インテル Xeon プロセッサ](#)、[ウィンドウ=_blank](#)詳細についてはこちらをご覧ください。



Advanced Micro Devices (AMD)プロセッサはONTAP Selectではサポートされていません。

イーサネット構成

クラスタのサイズに基づいて、サポートされるイーサネット構成がいくつかあります。

クラスタサイズ	最小要件	スワイショウヨウケン
シングルノードクラスタ	1GbE×2	10GbE × 2
2ノードクラスタまたはMetroCluster SDS	1GbE×4または10GbE×1	10GbE × 2
4、6、8、10、または12ノードのクラスタ	10GbE × 2	10GbE×4、または25/40GbE×2

インスタンスタイプに基づいた追加のハードウェア要件

ノードインスタンスのタイプに基づいて、ハードウェアに関する追加の要件がいくつかあります。

を参照してください "[プラットフォームのライセンス製品を理解する](#)" を参照してください。

ノードサイズ	CPUコア	メモリ	必要なプラットフォームライセンスの提供
小規模	6 個以上の物理コア（うち 4 個はONTAP Select用に予約）	24GB以上、16GBはONTAP Select用に予約済み	スタンダード、プレミアム、プレミアムXL
中	10 個以上の物理コア（うち 8 個はONTAP Select用に予約）	72GB以上、64GBはONTAP Select用に予約済み	プレミアムまたはプレミアムXL

ノードサイズ	CPUコア	メモリ	必要なプラットフォーム ライセンスの提供
大規模	18 個以上の物理コア（うち 16 個はONTAP Select 用に予約）	136GB以上、128GB はONTAP Select用に予約済み	Premium XL



プラットフォームライセンスに基づいて追加のディスクが必要になります。を参照してください ["ストレージと RAID"](#) を参照してください。

ONTAP SelectストレージとRAIDに関する考慮事項

ONTAP Select ホストストレージに関連するいくつかの計画の問題について考慮する必要があります。



ESXi および KVM ホストの外部ストレージ サポート情報について説明します。詳細については、["VMware ESXi の要件"](#)および["KVMの要件"](#)を参照してください。

ハードウェア RAID コントローラの要件

ONTAP Select を導入するハイパーバイザーホスト上の RAID コントローラがいくつかの要件を満たしている必要があります。



ONTAP Selectを実行するホストでは、ハードウェアRAIDコントローラまたはONTAP Selectで提供されるソフトウェアRAID機能を使用する場合、ローカルの物理ドライブが必要です。ONTAP Select vNAS 解決策 を使用して外付けストレージにアクセスする場合、ローカルの RAID コントローラとソフトウェア RAID 機能は使用されません。

RAID コントローラの最小要件は次のとおりです。

- 12Gbps のスループット
- 512MB の内蔵バッテリーバックアップ式キャッシュまたはフラッシュ（スーパーキャパシタ）キャッシュ
- ライトバックモードで設定：
 - フェイルバックモードを「ライトスルー」にする（サポートされている場合）
 - 「常に先読み」ポリシーを有効にする（サポートされている場合）
- RAID コントローラの背後にあるすべてのローカルディスクは、単一の RAID グループとして構成する必要があります。必要に応じて複数の RAID コントローラを使用します：
 - RAID グループのローカルドライブキャッシュを無効にします。このキャッシュは、データの整合性を維持するために必要です。
- 次のガイドラインに基づいて LUN 構成を実行します：
 - RAIDグループのサイズが最大LUNサイズの64TBを超える場合は、RAIDグループ内の使用可能なストレージをすべて消費する、同じサイズの複数のLUNを構成します。
 - RAIDグループのサイズが最大LUNサイズの64TBより小さい場合は、RAIDグループ内の使用可能なストレージをすべて消費する1つのLUNを設定します。

ソフトウェア RAID の要件

ハイパーバイザーに ONTAP Select クラスタを導入する場合は、ローカルハードウェア RAID コントローラの代わりに ONTAP Select が提供するソフトウェア RAID 機能を使用できます。ソフトウェア RAID を使用してクラスタを導入する前に、次の要件と制限事項を確認してください。

一般的な要件

ソフトウェアRAIDの導入環境は、次のコア要件を満たしている必要があります。

- VMware ESXi 8.0 GA (ビルド 20513097) 以降
- ONTAP Select プレミアムライセンス以上
- ローカル SSD ドライブのみ
- システムディスクをルートアグリゲートおよびデータアグリゲートから分離します
- ホストにハードウェア RAID コントローラがありません



ハードウェア RAID コントローラがある場合は、を参照してください ["ストレージの詳細を見る"](#) 追加の設定要件については、セクションを参照してください

ESXi固有の要件

- VMware ESXi 8.0 GA (ビルド 20513097) 以降
- VMware VMotion、HA、および DRS はサポートされません
- ONTAP Select 9.4以前からアップグレードされたノードではソフトウェアRAIDを使用できません。その場合は、ソフトウェアRAIDを導入するための新しいノードを作成する必要があります。

KVM固有の要件

また、特定のソフトウェアパッケージ設定要件もあります。参照["Linuxサーバーの準備"](#)詳細については、手順を参照してください。

KVMに対するメディアの期待

使用するSSDフラッシュストレージデバイスは、次の追加要件を満たしている必要があります。

- SSDデバイスは、次の方法で正確かつ永続的に自身をLinuxホストに報告する必要があります。
 - `# cat /sys/block /<device>/ queue / rotational`

これらのコマンドで報告される値は「0」である必要があります。

- デバイスはHBAに接続されているか、場合によってはJBODモードで動作するように構成されたRAID コントローラに接続されていることが想定されます。RAIDコントローラを使用する場合、デバイス機能は、RAID機能をオーバーレイせずにホストを通過する必要があります。JBODモードでRAIDコントローラを使用する場合は、RAIDドキュメントを確認するか、必要に応じてベンダーに連絡して、デバイスが回転速度を「0」として報告していることを確認する必要があります。
- 次の2つの独立したストレージコンポーネントがあります。
 - 仮想マシンストレージ

これは、ONTAP Select仮想マシンのホストに使用されるシステムデータを含むLVMプール（スト

レンジプール) です。LVMプールには耐久性に優れたフラッシュデバイスを使用する必要があり、SAS、SATA、NVMeのいずれかを使用できます。パフォーマンスを向上させるためには、NVMeデバイスを使用することを推奨します。

- データディスク

データ管理に使用するSASまたはSATA SSDドライブのセットです。SSDデバイスは、エンタープライズクラスで耐久性に優れている必要があります。NVMeインターフェイスはサポートされていません。

- すべてのデバイスは512BPSでフォーマットする必要があります。

ONTAP Select ノード構成

各 ONTAP Select ノードおよびハイパーバイザーホストを次のように設定して、ルートアグリゲートとデータアグリゲートからシステムディスクを分離する必要があります。

- システムストレージプールの作成 ONTAP Select システムデータ用のストレージプールを作成する必要があります。ONTAP Select ノードの設定の一環として、ストレージプールを接続する必要があります。
- 必要な物理ディスクの接続ハイパーバイザーホストに必要な SSD ディスクが接続されていて、ONTAP Select 仮想マシンで使用する必要があります。これらのドライブには、ルートアグリゲートとデータアグリゲートが格納されます。ONTAP Select ノードの設定の一環として、ストレージディスクを接続する必要があります。

ストレージ容量の制限

ONTAP Select の導入を計画する際には、ストレージの割り当てと使用に関する制限事項を把握しておく必要があります。

次に、最も重要なストレージの制限事項を示します。詳細については、も参照してください"[Interoperability Matrix Tool](#)"。



ONTAP Select では、ストレージの割り当てと使用に関していくつかの制限が適用されます。ONTAP Select クラスタを導入したりライセンスを購入したりする前に、これらの制限事項を確認しておく必要があります。を参照してください "[使用許諾](#)" 詳細については、を参照してください。

物理ストレージ容量の計算

ONTAP Select ストレージ容量は、仮想データおよび ONTAP Select 仮想マシンに接続されているルートディスクの合計許容サイズに対応します。容量を割り当てる際はこの点を考慮してください。

シングルノードクラスタの最小ストレージ容量

シングルノードクラスタ内のノードに割り当てられるストレージプールの最小サイズは次のとおりです。

- 評価： 500GB
- 本番： 1.0 TB

本番環境の最小割り当ては、ユーザデータ用に 1TB、さまざまな ONTAP Select 内部プロセス用に 266GB の容量が必要なオーバーヘッドとみなされます。

マルチノードクラスタの最小ストレージ容量

マルチノードクラスタの各ノードに割り当てられるストレージプールの最小サイズは次のとおりです。

- 評価： 1.9 TB
- 本番： 2.0 TB

本番環境の最小割り当ては、ユーザデータ用に 2TB と、さまざまな ONTAP Select 内部プロセスで使用される約 266GB です。これは必要なオーバーヘッドとみなされます。

HA ペア内の各ノードのストレージ容量は同じであることが必要です。



HAペアのストレージ容量を見積もるときは、すべてのアグリゲート（ルートとデータ）がミラーされていることを考慮する必要があります。その結果、アグリゲートの各プレックスが同じ量のストレージを消費します。

たとえば、2TBのアグリゲートを作成すると、2つのプレックスインスタンス（plex0の場合は2TB、plex1の場合は2TB）、またはライセンスで許可されている合計ストレージ容量の4TBに2TBが割り当てられます。

ストレージ容量と複数のストレージプール

ローカルの直接接続型ストレージ、VMware vSAN、または外付けストレージアレイを使用する場合は、各 ONTAP Select ノードで最大 400TB のストレージを使用するように設定できます。ただし、直接接続型ストレージまたは外付けストレージアレイを使用する場合、1つのストレージプールの最大サイズは 64TB です。したがって、このような状況で 64 TB を超えるストレージを使用する場合は、次のように複数のストレージプールを割り当てる必要があります。

- クラスタの作成プロセスで初期ストレージプールを割り当てます
- 1つ以上のストレージプールを追加して、ノードのストレージを増やします



各ストレージプールには2%のバッファが未使用のまま残されるため、容量ライセンスは必要ありません。ONTAP Selectは、容量上限を指定しない限り、このストレージを使用しません。容量上限を指定すると、指定された量が2%のバッファゾーン内に入らない限り、ONTAP Selectはその量のストレージを使用します。バッファは、ストレージプール内のすべてのスペースを割り当てようとしたときに時々発生するエラーを防ぐために必要です。

ストレージ容量と VMware vSAN

VMware vSAN を使用する場合、データストアは 64TB を超える場合があります。ただし、最初に割り当てることができるのは、ONTAP Select クラスタの作成時のみです。クラスタが作成されたら、既存の VSAN データストアから追加のストレージを割り当てることができます。ONTAP Select で使用できる VSAN データストアの容量は、VM ストレージポリシーセットによって決まります。

ベストプラクティス

ハイパーバイザーのコアハードウェアに関する次の推奨事項を考慮してください。

- 1つのONTAP Selectアグリゲート内のドライブはすべて同じタイプにする必要があります。たとえば、HDD ドライブと SSD ドライブを同じアグリゲート内に混在させることはできません。

プラットフォームライセンスに基づく追加のディスクドライブ要件

選択するドライブは、プラットフォームのライセンスサービスによって制限されます。



ディスクドライブの要件は、ソフトウェア RAID だけでなく、ローカルの RAID コントローラとドライブを使用する場合にも適用されます。これらの要件は、ONTAP Select vNAS 解決策経由でアクセスする外付けストレージには適用されません。

標準

- 内部 HDD（NL-SAS、SATA、10K SAS）× 8~60

Premium サービス

- 内部 HDD（NL-SAS、SATA、10K SAS）× 8~60
- 4~60 本の内蔵 SSD を搭載

Premium XL

- 内部 HDD（NL-SAS、SATA、10K SAS）× 8~60
- 4~60 本の内蔵 SSD を搭載
- 4~14 個の内蔵 NVMe



ローカル DAS ドライブを使用するソフトウェア RAID は、Premium ライセンス（SSD のみ）と Premium XL ライセンス（SSD または NVMe）でサポートされます。

NVMe ドライブにはソフトウェア RAID を使用

NVMe SSD ドライブを使用するようにソフトウェア RAID を設定できます。環境が次の要件を満たしている必要があります。

- サポートされているDeploy管理ユーティリティを備えたONTAP Select
- Premium XL プラットフォームライセンス製品または 90 日間の評価ライセンス
- VMware ESXi バージョン 8.0 以降
- 仕様 1.0 以降に準拠する NVMe デバイス

NVMe ドライブを使用する前に、ドライブを手動で設定する必要があります。を参照してください ["NVMe ドライブを使用するようにホストを設定"](#) を参照してください。

ガイブストレージノヨウケン

ONTAP SelectのVMware ESXi外部ストレージ要件

ONTAP Select vNASは、ONTAP Select仮想マシンを実行するESXiハイパーバイザーホストの外部にONTAP Selectデータストアを配置できる解決策です。これらのリモートデータストアには、VMware vSANまたは汎用の外付けストレージアレイを使用してアクセスできます。

ONTAP Select vNAS 解決策 は、サイズの異なる ONTAP Select クラスタで使用できます。

関連するすべてのストレージコンポーネント（ハードウェア、ソフトウェア、機能の要件を含む）は、に記載されている要件に準拠している必要があります"[Interoperability Matrix Tool](#)". さらに、ONTAP Select は、iSCSI、NAS（NFSv3）、ファイバチャネル、Fibre Channel over Ethernetなど、VMware Storage/SAN Compatibilityのドキュメントに記載されているすべての外付けストレージアレイをサポートしています。外付けアレイのサポートは、ONTAP Select がサポートする ESXi のバージョンによって制限されます。

ONTAP Select vNAS を使用してクラスタを導入する場合は、VMware の次の機能がサポートされます。

- vMotion
- 高可用性（HA）
- Distributed Resource Scheduler（DRS）



これらの VMware の機能は、シングルノードおよびマルチノードの ONTAP Select クラスタでサポートされています。マルチノードクラスタを導入する場合は、同じクラスタの 2 つ以上のノードが同じハイパーバイザーホストで実行されていないことを確認する必要があります。

VMware の次の機能はサポートされません。

- フォールトトレランス（FT）
- 仮想データストア（VVOL）

設定要件

外付けストレージアレイ（iSCSI、ファイバチャネル、Fibre Channel over Ethernet）で VMFS データストアを使用する場合は、ストレージを使用するように ONTAP Select を設定する前に、VMFS ストレージプールを作成しておく必要があります。NFS データストアを使用する場合は、個別の VMFS データストアを作成する必要はありません。すべての vSAN データストアを同じ ESXi クラスタ内で定義してください。



ホストの設定時やストレージの追加処理の実行時には、VMware vSAN または外付けストレージアレイ上の各データストアの容量制限を指定する必要があります。外付けストレージで許可されるストレージの制限内の容量を指定してください。容量制限を指定しない場合や、ディスク作成処理の際に外付けストレージのスペースが不足している場合は、エラーが発生します。

ベストプラクティス

VMware のドキュメントを確認し、ESXi ホストに該当するベストプラクティスに従ってください。さらに（：）

- ONTAP Select ネットワークと外付けストレージ（iSCSI または NFS を使用する場合は、VMware vSAN と汎用のストレージアレイのトラフィック）に専用のネットワークポート、帯域幅、および vSwitch の構成を定義します。
- ストレージ利用率を制限するように容量オプションを設定します（ONTAP Select では、外部 vNAS データストアの全容量は使用できません）。
- すべての汎用外部ストレージアレイが、可能な限り利用可能な冗長性とHA機能を使用していることを確認します

ONTAP Select のKVM外部ストレージ要件

外付けストレージアレイを使用するKVMハイパーバイザーでONTAP Selectを設定できます。

基本的な要件と制限事項

外付けアレイをONTAP Selectストレージプールに使用する場合は、次の構成制限が適用されます。

- CLVMを使用して論理プールタイプとしてを定義する必要があります。
- ストレージ容量の制限を指定する必要があります。
- この構成では、FC、Fibre Channel over Ethernet (FCoE)、およびiSCSIの各プロトコルのみがサポートされます。
- シンプロビジョニングされたストレージが構成で認識されません。



外部ストレージの許容ストレージ制限内のストレージ容量を指定する必要があります。容量制限を指定しないと、ディスクの作成処理中に外部ストレージのスペースが不足すると、エラーが発生します。

ベストプラクティス

次のベスト プラクティスに従う必要があります：

- ONTAP Selectネットワークおよび外部ストレージ用に、専用のネットワークポート、帯域幅、およびvSwitchの構成を定義する
- 容量オプションを設定してストレージ利用率を制限する（ONTAP Selectは外部ストレージプールの全容量を使用できない）
- 可能な場合は、すべての外付けストレージアレイで使用可能な冗長性とハイアベイラビリティ（HA）機能が使用されていることを確認します。

ONTAP Selectネットワークに関する考慮事項

ONTAP Select を導入する前に、ハイパーバイザーのネットワークを正しく設定する必要があります。

仮想スイッチのオプション

各 ONTAP Select ホストで、外部ネットワークと内部ネットワーク（マルチノードクラスタの場合のみ）をサポートするように仮想スイッチを設定する必要があります。マルチノードクラスタの導入の一環として、内部クラスタネットワーク上のネットワーク接続をテストしてください。



ハイパーバイザーホストで vSwitch を設定する方法と、高速インターフェイス機能の詳細については、を参照してください ["ネットワークキングの詳細"](#) セクション。

VMXNET3へのアップグレード（ESXiのみ）

Deploy 2.10 を使用した ONTAP Select 9.5 以降では、VMware ESXi での新しいクラスタの導入に付属するデフォルトのネットワークドライバとして VMXNET3 が用意されています。古いONTAP Selectノードをバージ

ョン9.5以降にアップグレードしても、ドライバは自動的にアップグレードされません。

クラスタ MTU

マルチノードクラスタの ONTAP Select ノードの接続には、別の内部ネットワークが使用されます。通常、このネットワークの MTU サイズは 9000 です。ただし、ONTAP Select ノードを接続するネットワークの MTU サイズが大きすぎる場合があります。小さいフレームに対応するために、内部ネットワーク上の ONTAP Select で使用される MTU サイズは 7500~9000 バイトの範囲で指定できます。

MTU サイズは、クラスタ作成ページの「Cluster Details」セクションに表示されます。この値は、Deploy 管理ユーティリティで次のように決定されます。

1. 初期デフォルト値は 9000 です。
2. HA ペアのホストとネットワークを追加すると、ネットワーク内の vSwitch の構成に基づいて、必要に応じて MTU 値が減ります。
3. すべての HA ペアを追加してクラスタを作成できる状態になると、クラスタの最終的なクラスタ MTU 値が設定されます。



ネットワークの設計に基づいて、必要に応じてクラスタの MTU 値を手動で設定できます。

標準vSwitchを使用する2NICホスト（ESXiのみ）

2NIC 構成で ONTAP Select のパフォーマンスを向上させるには、2つのポートグループを使用して内部と外部のネットワークトラフィックを分離する必要があります。この推奨構成では、次のような特定の構成が環境に推奨

- ONTAP Select マルチノードクラスタ
- NIC 2 枚（NIC 1 および NIC 2）
- 標準 vSwitch

この環境では、次のように 2 つのポートグループを使用してトラフィックを設定する必要があります。

ポートグループ 1

- 内部ネットワーク（クラスタ、RSM、HA-IC トラフィック）
- NIC1 がアクティブである
- NIC2 がスタンバイ状態です

ポートグループ 2

- 外部ネットワーク（データトラフィックと管理トラフィック）
- NIC1 はスタンバイである
- NIC2 がアクティブです

を参照してください ["ネットワークの詳細"](#) 2NICの導入の詳細については、セクションを参照してください。

標準vSwitchを使用する4 NICホスト（ESXiのみ）

4 つの NIC 構成で ONTAP Select のパフォーマンスを向上させるには、4 つのポートグループを使用して内部と外部のネットワークトラフィックを分離する必要があります。この推奨構成では、次のような特定の構成が環境に推奨

- ONTAP Select マルチノードクラスタ
- NIC × 4（NIC1、NIC2、NIC3、NIC4）
- 標準 vSwitch

この環境では、次のように 4 つのポートグループを使用してトラフィックを設定する必要があります。

ポートグループ 1

- 内部ネットワーク（クラスタ、RSM トラフィック）
- NIC1 がアクティブである
- NIC2、NIC3、NIC4 スタンバイ

ポートグループ 2

- 内部ネットワーク（クラスタ、HA-IC トラフィック）
- NIC3 がアクティブです
- NIC1、NIC2、NIC4 スタンバイ

ポートグループ 3

- 外部ネットワーク（データトラフィックと管理トラフィック）
- NIC2 がアクティブです
- NIC1、NIC3、NIC4 スタンバイ

ポートグループ 4

- 外部ネットワーク（データトラフィック）
- NIC4 はアクティブです
- NIC1、NIC2、NIC3、スタンバイ状態

を参照してください ["ネットワークの詳細"](#) 4 NICの導入の詳細については、セクションを参照してください。

ネットワークトラフィックの要件

ONTAP Select 環境のさまざまな参加者間でネットワークトラフィックが流れるように、ファイアウォールが適切に設定されていることを確認する必要があります。

参加者

ONTAP Select 環境の一部としてネットワークトラフィックを交換する複数の参加者またはエンティティがあります。これらの情報が導入され、ネットワークトラフィック要件の要約概要で使用されます。

- Deploy ONTAP Select 管理ユーティリティを導入する

- vSphere (ESXiのみ)
vSphereサーバまたはESXiホスト (クラスタ環境でのホストの管理方法に応じて)
- ハイパーバイザーサーバ
ESXiハイパーバイザーホストまたはLinux KVMホスト
- OTS ノード: ONTAP Select ノード
- OTS クラスタ ONTAP Select クラスタです
- Admin WS ローカル管理ワークステーション

ネットワークトラフィック要件の要約

次の表に、ONTAP Select 環境のネットワークトラフィック要件を示します。

プロトコル / ポート	ESXi / KVM	方向 (Direction)	説明
TLS (443)	ESXi	vCenterサーバ (管理対象) またはESXi (管理対象または管理対象外) に導入	VMware VIX API
902	ESXi	vCenter Server (管理対象) またはESXi (管理対象外) に導入	VMware VIX API
ICMP	ESXiまたはKVM	ハイパーバイザーサーバに導入します	Ping
ICMP	ESXiまたはKVM	各 OTS ノードに展開します	Ping
SSH (22)	ESXiまたはKVM	管理 WS を各 OTS ノードに割り当てます	管理
SSH (22)	KVM の略	ハイパーバイザーサーバノードに導入	アクセスハイパーバイザーサーバ
TLS (443)	ESXiまたはKVM	OTS ノードおよびクラスタに展開します	ONTAP にアクセスします
TLS (443)	ESXiまたはKVM	展開する各 OTS ノード	Access Deploy (Capacity Poolsのライセンス)
iSCSI (3260)	ESXiまたはKVM	展開する各 OTS ノード	メディアエーター / メールボックスディスク

HA 構成の ONTAP Select 2 ノードクラスタ

HA を使用して 2 ノードクラスタを導入する場合は、他のクラスタノード構成と同じ計画と構成を使用します。ただし、2 ノードクラスタを作成する場合に注意しなければならない相違点がいくつかあります。

ターゲットとなる環境

2 ノードクラスタは 1 つの HA ペアで構成されており、リモートオフィス / ブランチオフィス環境向けに設計されています。



主にリモートオフィス / ブランチオフィス環境向けに設計されていますが、必要に応じてデータセンターに 2 ノードクラスタを導入することもできます。

ライセンス

任意の VMware vSphere ライセンスを使用して、2 ノードクラスタを導入できます。ただし、VMware ROBO Standard と Advanced のライセンスはリモートオフィス / ブランチオフィス環境に適しています。

メディアーターサービス

クラスタが2つのノードで構成されている場合は、ノードに障害が発生したり、通信が失われたりすると、必要なクォーラムを確保できません。このようなスプリットブレイン状態を解決するために、ONTAP Select Deploy ユーティリティの各インスタンスにはメディアーターサービスが用意されています。このサービスは、アクティブな2ノードクラスタ内の各ノードに接続して HA ペアを監視し、障害の管理を支援します。メディアーターサービスは、各2ノードクラスタに関連付けられている専用の iSCSI ターゲットで HA の状態情報を管理します。



アクティブな2ノードクラスタが1つ以上ある場合、クラスタを管理するONTAP Select Deploy 仮想マシンは常に実行されている必要があります。DeployONTAP Select Deploy 仮想マシンが停止または障害が発生した場合、メディアーター サービスは利用できなくなり、2 ノード クラスタの HA 機能が失われます。

クラスタとメディアーターサービスの場所

2 ノード クラスタは通常、リモート オフィスまたはブランチ オフィスに導入されるため、企業のデータ センターや管理サポートを提供するONTAP Select Deploy ユーティリティから離れた場所に設置できます。この構成では、ONTAP Select Deploy ユーティリティとクラスタ間の管理トラフィックは WAN 経由で流れます。制限事項の詳細については、リリースノートをご覧ください。

デプロイ構成データをバックアップする

ベストプラクティスとしては、["ONTAP Select Deploy構成データをバックアップする"](#)クラスターの作成後も含め、定期的に行います。これは、バックアップにメディアーター構成データが含まれるため、2ノードクラスターでは特に重要になります。

Deploy に割り当てられた静的 IP アドレス

ONTAP Select Deploy 管理ユーティリティに静的 IP アドレスを割り当てる必要があります。この要件は、1 つ以上のONTAP Select 2 ノード クラスタを管理するすべてのONTAP Select Deploy インスタンスに適用されます。

ONTAP Selectのリモートオフィスとブランチオフィスへの導入

リモートオフィス / ブランチオフィス（ROBO）環境に ONTAP Select を導入できます。ROBO 環境の計画の一環として、目標を達成するための設定を選択する必要があります。

ROBO 環境への ONTAP Select の導入時に使用できる設定は主に 2 つあります。



ONTAP Select の導入時には、任意の VMware vSphere ライセンスを使用できます。

ONTAP HA 構成の ONTAP Select 2 ノードクラスタ

ONTAP Select の 2 ノードクラスタは、1 つの HA ペアで構成されており、ROBO 環境に最適です。

VMware をサポートする ONTAP Select シングルノードクラスタ

ONTAP Select シングルノードクラスタを ROBO 環境に導入できます。シングルノードには標準の HA 機能はありませんが、クラスタを導入する場合は、次のいずれかの方法でストレージを保護できます。

- VMware HA を使用して外部の共有ストレージを導入
- VMware vSAN



VSAN を使用する場合は、VMware vSAN ROBO ライセンスが必要です。

ONTAP Select MetroCluster SDS導入の準備

MetroCluster SDS は、2 ノード ONTAP Select クラスタを作成する際の構成オプションです。Remote Office / Branch Office（ROBO；リモートオフィス / ブランチオフィス）環境と似ていますが、2 つのノード間の距離は最大で 10 km までです強化された 2 ノード環境では、さらにユースケースシナリオが追加されています。MetroCluster SDS の導入準備の一環として、要件と制限事項を理解しておく必要があります。

MetroCluster SDSを導入する前に、次の要件を満たしていることを確認してください。

ライセンス

各ノードに Premium 以上の ONTAP Select ライセンスが必要です。

ハイパーバイザープラットフォーム

MetroCluster SDS は、ROBO 環境内の 2 ノードクラスタでのサポートに応じて、同じ VMware ESXi ハイパーバイザーと KVM ハイパーバイザーに導入できます。



ONTAP Select 9.14.1以降では、KVMハイパーバイザーのサポートが再開されました。これまでのONTAP Select 9.10.1では、KVMハイパーバイザーへの新しいクラスタの導入がサポートされなくなり、ONTAP Select 9.11.1では、オフラインへの切り替えや削除を除く既存のKVMクラスタとホストの管理がサポートされなくなりました。

ネットワーク構成：

参加サイト間にはレイヤ 2 接続が必要です。10GbE と 1GbE の両方がサポートされ、以下の構成が含まれます。

- 10GbE × 1
- 1GbE × 4



データ提供ポートとインターコネクトポートは、最初に同じスイッチに接続する必要があります。

ノード間のレイテンシ

2 つのノード間のネットワークは、5 ミリ秒の平均レイテンシと 5 ミリ秒の周期ジッターをサポートしている必要があります。クラスタを導入する前に、に記載されている手順 を使用してネットワークをテストする必要があります ["ネットワークの詳細"](#) セクション。

メディエーターサービス

すべての 2 ノード ONTAP Select クラスタと同様に、Deploy 仮想マシンには独立したメディエーターサービスが用意されており、このサービスによってノードが監視され、障害の管理を支援します。MetroCluster SDS で利用可能な拡張距離により、ネットワークトポロジ内に 3 つの異なるサイトが作成されます。メディエーターとノードの間のリンクでのレイテンシは、ラウンドトリップ時間が 125 ミリ秒以下である必要があります。

ストレージ

直接接続型ストレージ（DAS）は、HDD ディスクと SSD ディスクのどちらかを使用する構成でサポートされます。vNAS は、VMware 環境での外付けストレージアレイや VSAN などもサポートされます。



MetroCluster SDS を導入する場合、分散トポロジまたは「拡張」トポロジで VSAN を使用することはできません。

Deploy に割り当てられた静的 IP アドレス

Deploy 管理ユーティリティに静的 IP アドレスを割り当てる必要があります。この要件は、1 つ以上の ONTAP Select 2 ノードクラスタを管理する環境 All Deploy インスタンスです。

ESXi上のONTAP Select VMware vCenterサーバ

vCenter Server アカウントを定義して、必要な管理権限を含むロールに関連付ける必要があります。



また、ONTAP Select が導入されているESXiハイパーバイザーホストを管理するvCenter Serverの完全修飾ドメイン名またはIPアドレスも必要です。

管理者権限

ONTAP Select クラスタの作成と管理に必要な最小限の管理者権限を次に示します。

データストア

- スペースを割り当てます
- データストアを参照します
- ファイル処理のレベルが低い
- 仮想マシンファイルを更新します
- 仮想マシンのメタデータを更新します

ホスト

設定

- ネットワーク構成：
- システム管理

ローカル操作

- 仮想マシンを作成します
- 仮想マシンを削除します
- 仮想マシンを再構成します

ネットワーク

- ネットワークを割り当てます

仮想マシン

設定

カテゴリ内のすべての権限。

相互作用

カテゴリ内のすべての権限。

在庫

カテゴリ内のすべての権限。

プロビジョニング

カテゴリ内のすべての権限。

vApp

カテゴリ内のすべての権限。

関連情報

["vCenter の vSAN ESA に対する VMware vSphere 権限について学習します"](#)

ONTAP Select 導入

ONTAP Select Deploy の一般的な要件と計画

ONTAP Select Deploy 管理ユーティリティのインストールを計画する際に考慮する必要のある一般的な要件がいくつかあります。

Deploy ユーティリティと ONTAP Select クラスタのペアリング

Deploy ユーティリティのインスタンスを ONTAP Select クラスタにペアリングする際に使用するいくつかのオプションがあります。



すべての導入シナリオでは、単一の ONTAP Select クラスタとクラスタ内のノードを、Deploy 管理ユーティリティの 1 つのインスタンスだけで管理できます。Deploy ユーティリティの 2 つ以上の異なるインスタンスによって 1 つのクラスタを管理することはできません。

ONTAP Select クラスタごとにユーティリティの 1 つのインスタンス

Deploy ユーティリティの専用のインスタンスを使用して、各 ONTAP Select クラスタを導入および管理できます。この 1 対 1 の構成では、ユーティリティとクラスタの各ペアリングが明確に分離されます。この構成では、小規模な障害ドメインで高度な分離が実現されます。

複数の ONTAP Select クラスタにユーティリティの 1 つのインスタンスを使用する

Deploy ユーティリティの単一インスタンスを使用して、複数の ONTAP Select クラスタを組織で導入および管理できます。この 1 対多の構成では、すべての処理データと設定データが Deploy ユーティリティの同じインスタンスによって管理されます。



Deploy ユーティリティの 1 つのインスタンスで、最大 400 個の ONTAP Select ノードまたは 100 個のクラスタを管理できます。

KVM環境に関連する要件

Deploy管理ユーティリティをKVMハイパーバイザー環境にインストールする前に、基本的な要件を確認し、導入の準備を行う必要があります。

導入の要件と制限事項

ONTAP Select DeployユーティリティをKVM環境にインストールするときは、いくつかの要件と制限事項について考慮する必要があります。

Linux KVMホストサーバハードウェアの要件

Linux KVMハイパーバイザーホストがいくつかのリソースの最小要件を満たしている必要があります。ONTAP Selectを導入するホストが次の基本的な要件を満たしていることを確認します。

- Linuxサーバ：
 - ハードウェアとソフトウェアは64ビットである必要があります。
 - サーバは、ONTAP Selectノードに対して定義されたものと同じサポートされているバージョンに準拠している必要があります。
- 仮想 CPU (2)
- 仮想メモリ (4GB)
- ストレージ (40GB)
- "Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP；動的ホスト構成プロトコル) が有効になっています (静的IPアドレスを割り当てることもできます)。

ネットワーク接続

Deploy仮想マシンのネットワークインターフェイスが設定され、管理するONTAP Selectホストに接続できることを確認します。

IP バージョン 4 のサポート

ONTAP Select Deploy は、IP バージョン 4 (IPv4) のみをサポートします。IP バージョン 6 (IPv6) はサポートされません。この制限は、次の点で ONTAP Select に影響します。

- Deploy VMの管理LIFにIPv4アドレスを割り当てる必要があります。
- ONTAP LIF で IPv6 を使用するように設定された ONTAP Select ノードを Deploy で作成することはできません。

必要な設定情報

導入計画の一環として、ONTAP Select Deploy 管理ユーティリティをインストールする前に、必要な設定情報を特定しておく必要があります。

Deploy VMの名前

VMに使用する名前。

Linux KVMホストの名前

DeployユーティリティがインストールされているLinux KVMホスト。

ストレージプールの名前

VMファイルを格納するストレージプール（約40GBが必要）。

VMのネットワーク

Deploy VMが接続されているネットワーク。

オプションのネットワーク構成情報

Deploy VMは、デフォルトでDHCPを使用して設定されます。ただし、必要に応じて、VMのネットワークインターフェイスを手動で設定できます。

ホスト名

ホストの名前。

ホストの **IP** アドレス

静的IPv4アドレス。

サブネットマスク

サブネットワークマスク。VMが属するネットワークに基づいています。

ゲートウェイ

デフォルトゲートウェイまたはルータ。

プライマリ **DNS** サーバ

プライマリドメインネームサーバ。

セカンダリ **DNS** サーバ

セカンダリドメインネームサーバ。

検索ドメイン

使用する検索ドメイン。

クレデンシャルストアを使用した認証

ONTAP Select Deployクレデンシャルストアは、アカウント情報を保持するデータベースです。Deploy は、クラスタの作成と管理の一環として、アカウントのクレデンシャルを使用してホスト認証を実行します。ONTAP Select の導入計画の一環として、クレデンシャルストアがどのように使用されるかを理解しておく必要があります。



アカウント情報は、AES 暗号化アルゴリズムと SHA-256 ハッシュアルゴリズムを使用し、データベースに安全に保存されます。

クレデンシャルのタイプ

次のタイプのクレデンシャルがサポートされます。

- ONTAP Select ノードを VMware ESXi に直接導入する際にハイパーバイザーホストを認証するために使用するホスト

- ホストが VMware vCenter で管理されている場合、ESXi への ONTAP Select ノードの導入時に vCenter サーバの認証に使用する vCenter

にアクセスします

クレデンシャルストアは、ハイパーバイザーホストの追加など、Deploy を使用する通常の管理タスクの実行時に内部的にアクセスされます。Deploy の Web ユーザインターフェイスと CLI を使用して、クレデンシャルストアを直接管理することもできます。

ONTAP Select Deploy ハイパーバイザーホストに関する考慮事項

ハイパーバイザーホストに関連するいくつかの計画の問題について考慮する必要があります。



ネットアップサポートからの指示がないかぎり、ONTAP Select 仮想マシンの構成を直接変更しないでください。仮想マシンの設定と変更は、Deploy 管理ユーティリティからのみ実行してください。ネットアップサポートの支援なしで Deploy ユーティリティ以外の ONTAP Select 仮想マシンに変更を加えると、原因でその仮想マシンが失敗し、使用できなくなる可能性があります。

ハイパーバイザーに依存しない

ONTAP Select と ONTAP Select Deploy 管理ユーティリティはどちらもハイパーバイザーに依存しません。

次のハイパーバイザーは、ONTAP Select と ONTAP Select Deploy の両方の管理でサポートされます。

- VMware ESXi
- Kernel-based Virtual Machine (KVM)



サポート対象のプラットフォームの詳細については、ハイパーバイザー固有の計画情報とリリースノートを参照してください。

ONTAP Select ノードと管理ユーティリティ用のハイパーバイザー

Deploy 管理ユーティリティと ONTAP Select ノードは、どちらも仮想マシンとして実行されます。Deploy ユーティリティ用に選択したハイパーバイザーは、ONTAP Select ノード用に選択したハイパーバイザーに依存しません。この 2 つをペアリングすると、完全な柔軟性が得られます。

- VMware ESXi で実行される Deploy ユーティリティは、VMware ESXi または KVM で ONTAP Select クラスタを作成および管理できます
- KVM で実行される Deploy ユーティリティは、VMware ESXi または KVM で ONTAP Select クラスタを作成および管理できます

ホストごとに 1 つ以上の **ONTAP Select** ノードインスタンス

各 ONTAP Select ノードは専用の仮想マシンとして実行されます。同じハイパーバイザーホストに複数のノードを作成できますが、次の制限事項があります。

- 1 つの ONTAP Select クラスタの複数のノードを同じホストで実行することはできません。特定のホスト上のすべてのノードは、異なる ONTAP Select クラスタに属している必要があります。
- 外付けストレージを使用する必要があります。

- ソフトウェア RAID を使用する場合、ホストに導入できる ONTAP Select ノードは 1 つだけです。

クラスタ内のノードに対するハイパーバイザーの整合性

ONTAP Select クラスタ内のすべてのホストが、同じバージョンおよびリリースのハイパーバイザーソフトウェアで実行されている必要があります。

各ホストの物理ポートの数

各ホストで 1 つ、2 つ、または 4 つの物理ポートを使用するように設定する必要があります。ネットワークポートを柔軟に設定することもできますが、可能な場合は次の推奨事項に従う必要があります。

- シングルノードクラスタのホストには 2 つの物理ポートが必要です。
- マルチノードクラスタの各ホストには 4 つの物理ポートが必要です

ONTAP Select と ONTAP ハードウェアベースのクラスタの統合

ONTAP Select ノードをハードウェアベースの ONTAP クラスタに直接追加することはできません。ただし、必要に応じて、ONTAP Select クラスタとハードウェアベースの ONTAP クラスタの間にクラスタピア関係を確立できます。

VMware ハイパーバイザー環境です

VMware 環境に固有の要件と制限事項がいくつかあります。これらは、VMware 環境に ONTAP Select Deploy ユーティリティをインストールする前に検討する必要があります。

ESXi ホストサーバハードウェアの要件

ESXi ハイパーバイザーホストがいくつかのリソースの最小要件を満たしている必要があります。ONTAP Select を導入するホストが次の基本的な要件を満たしていることを確認してください。

- ESXi サーバ：
 - ハードウェアとソフトウェアは 64 ビットである必要があります
 - ONTAP Select ノードに対して定義されたものと同じ、サポート対象のバージョンを使用している必要があります
- 仮想 CPU (2)
- 仮想メモリ (4GB)
- ストレージ (40GB)
- DHCP が有効 (静的 IP アドレスを割り当てることも可能)

ネットワーク接続

ONTAP Select Deploy 仮想マシンのネットワークインターフェイスが設定されていること、および単一の管理 IP アドレスが割り当てられていることを確認してください。DHCP を使用すると、IP アドレスを動的に割り当てることも、静的 IP アドレスを手動で設定することもできます。

導入する決定に応じて、Deploy VM が管理する vCenter サーバ、ESXi ハイパーバイザーホスト、および ONTAP Select ノードに接続する必要があります。必要なトラフィックを許可するようにファイアウォールを設定する必要があります。

Deploy は、VMware VIX API を使用して vCenter サーバおよび ESXi ホストと通信します。最初に、TCP ポート 443 上で SSL 経由の SOAP を使用して接続を確立します。その後、ポート 902 で SSL を使用して接続

が開かれます。さらに、Deploy は ping コマンドを発行して、指定した IP アドレスに ESXi ホストがあることを確認します。

Deploy は、次のプロトコルを使用して、ONTAP Select ノードおよびクラスタ管理 IP アドレスと通信できる必要があります。

- ping コマンド（ICMP）
- SSH（ポート 22）
- SSL（ポート 443）

IP バージョン 4 のサポート

ONTAP Select Deploy は、IP バージョン 4（IPv4）のみをサポートします。IP バージョン 6（IPv6）はサポートされません。この制限は、次の点で ONTAP Select に影響します。

- Deploy 仮想マシンの管理 LIF に IPv4 アドレスを割り当てる必要があります。
- ONTAP LIF で IPv6 を使用するように設定された ONTAP Select ノードを Deploy で作成することはできません。

ONTAP Select Deploy VMware vCenter Server の考慮事項

ESA の VMware vSphere 権限

以下は、vCenter で vSAN Express Storage Architecture (ESA) を作成および管理するために必要な vSphere コンテンツ ライブラリの特定の権限の一覧です。

- ライブラリアイテムを追加
- ローカルライブラリを作成する
- ライブラリアイテムを削除
- ローカルライブラリを削除する
- ファイルをダウンロードする
- ストレージの読み取り
- ファイルの更新
- ライブラリを更新
- ライブラリアイテムを更新
- ローカルライブラリを更新する
- 構成設定を表示する

ONTAP Select 導入のベストプラクティスの概要

ONTAP Select の導入を計画する際に考慮する必要があるベストプラクティスがあります。

ストレージ

ストレージに関する次のベストプラクティスを考慮してください。

オールフラッシュアレイまたは汎用フラッシュアレイ

オールフラッシュ VSAN または汎用フラッシュアレイを使用する ONTAP Select 仮想 NAS（vNAS）環境は、SSD 以外の DAS ストレージを使用する ONTAP Select のベストプラクティスに従う必要があります。

外付けストレージ

次の推奨事項に従う必要があります。

- ONTAP Select ネットワークおよび外部ストレージ用に、専用のネットワークポート、帯域幅、および vSwitch の構成を定義する
- 容量オプションを設定してストレージ利用率を制限する（ONTAP Select は外部ストレージプールの全容量を使用できない）
- 可能な場合は、すべての外付けストレージアレイで使用可能な冗長性と HA 機能が使用されていることを確認します

ハイパーバイザーコアハードウェア

単一の ONTAP Select アグリゲート内のすべてのドライブを同じタイプにする必要があります。たとえば、HDD ドライブと SSD ドライブを同じアグリゲート内に混在させることはできません。

RAID コントローラ

サーバ RAID コントローラは、ライトバックモードで動作するように設定する必要があります。書き込みワークロードのパフォーマンスに問題が見られる場合は、コントローラの設定を調べて、ライトスルーまたはライトア라운드が有効になっていないことを確認してください。

物理サーバに搭載された単一の RAID コントローラがすべてのローカル接続ディスクを管理している場合は、サーバ OS 専用の LUN を 1 つ作成し、ONTAP Select 用に 1 つ以上の LUN を作成することを推奨します。このベストプラクティスにより、ブートディスクが破損した場合でも、管理者は ONTAP Select に影響を与えることなく OS LUN を再作成できます。

RAID コントローラキャッシュは、NVRAM パーティション宛ての変更だけでなく、受信ブロックのすべての変更を保存するために使用されます。したがって、RAID コントローラを選択する場合は、使用可能なキャッシュが最も大きいコントローラを選択してください。キャッシュが大きいほどディスクフラッシュの回数が減るため、ONTAP Select VM とハイパーバイザーのパフォーマンス、およびサーバに配置されているすべてのコンピューティング VM のパフォーマンスも向上します。

RAID グループ

最適な RAID グループサイズは 8~12 ドライブです。RAID グループあたりの最大ドライブ数は 24 本です。

ONTAP Select ノードあたりサポートされる NVMe ドライブの最大数は 14 本です。

スペアディスクはオプションですが、推奨されます。また、RAID グループごとに 1 つのスペアを使用することも推奨します。ただし、すべての RAID グループに対してグローバルスペアを使用できます。たとえば、8~12 本のドライブで構成する 3 つの RAID グループごとに 2 つのスペアを使用できます。

ONTAP Select グループ内の LUN 数を増やしても、パフォーマンスが向上することはありません。複数の LUN を使用するのには、SATA / NL-SAS 構成のベストプラクティスに従うため、またはハイパーバイザーのファイルシステムに関する制限に対応するためです。

VMware ESXi ホスト

NetAppでは、システム ディスクをホストするデータストアには、ESXi 8.0 以降と NVMe ディスクを使用することを推奨しています。この構成により、NVRAM パーティションに最適なパフォーマンスが提供されます。



ESXi 8.0以降にインストールする場合、ONTAP Selectは、システム ディスクがSSD上にあるかNVMeディスク上にあるかに関係なく、vNVMeドライバーを使用します。これにより、VM ハードウェア レベルが13に設定され、ESXi 8.0以降と互換性を持つようになります。

ONTAP Select ネットワークと外付けストレージ（iSCSI または NFS を使用する場合は、VMware vSAN と汎用のストレージアレイのトラフィック）に専用のネットワークポート、帯域幅、および vSwitch の構成を定義します。

ストレージ利用率を制限するように容量オプションを設定します（ONTAP Select では、外部 vNAS データストアの全容量は使用できません）。

可能な場合は、すべての汎用の外付けストレージアレイで、使用可能な冗長性功能と HA 機能を使用してください。

VMware Storage vMotion の略

ONTAP Select ノードで VMware Storage vMotion を使用するかどうかを決定する際の検討事項は、新しいホストでの使用可能な容量だけではありません。基盤となるストレージタイプ、ホスト構成、ネットワーク機能が、元のホストと同じワークロードに対応できる必要があります。

ネットワーキング

ネットワークに関する次のベストプラクティスを考慮してください。

MAC アドレスが重複しています

複数の Deploy インスタンスが重複する MAC アドレスを割り当てないようにするには、1 つのレイヤ 2 ネットワークにつき 1 つの Deploy インスタンスを使用して、ONTAP Select クラスタまたはノードを作成または管理する必要があります。

EMS メッセージです

2 ノード ONTAP Select クラスタでは、ストレージフェイルオーバーが無効であることを示す EMS メッセージが表示されていないかを注意深く監視する必要があります。このメッセージはメディアエーターサービスへの接続が失われたことを示すため、ただちに解決が必要です。

ノード間のレイテンシ

2 つのノード間のネットワークは、5 ミリ秒の平均レイテンシと 5 ミリ秒の周期ジッターをサポートしている必要があります。クラスタを導入する前に、テクニカルレポート『ONTAP Select製品アーキテクチャとベストプラクティス』で説明されている手順を使用してネットワークをテストしてください。

負荷分散

内部と外部の ONTAP Select ネットワークの両方でロードバランシングを最適化するには、ロードバランシングポリシー「Route Based on Originating Virtual Port」を使用します。

複数のレイヤ 2 ネットワーク

データトラフィックが複数のレイヤ 2 ネットワークにまたがっており、VLAN ポートの使用が必要である場合、または複数の IPspace を使用している場合は、VGT を使用する必要があります。

物理スイッチの構成

VMware では、ESXi ホストに接続されたスイッチポートで STP を Portfast に設定することを推奨しています。スイッチポートで STP を Portfast に設定しないと、アップリンクで障害が発生した場合に ONTAP Select が対応できないおそれがあります。LACP を使用する場合は、LACP タイマーを高速（1 秒）に設定する必要があります。ロードバランシングポリシーは、ポートグループでは「Route Based on IP Hash」、LAG では「Source and Destination IP Address and TCP/UDP Port and VLAN」に設定する必要があります。

KVMの仮想スイッチオプション

各 ONTAP Select ホストで、外部ネットワークと内部ネットワーク（マルチノードクラスタの場合のみ）をサポートするように仮想スイッチを設定する必要があります。マルチノードクラスタの導入の一環として、内部クラスタネットワーク上のネットワーク接続をテストしてください。

ハイパーバイザーホストで Open vSwitch を設定する方法の詳細については、["ONTAP Select on KVM製品アーキテクチャとベストプラクティス"](#) テクニカルレポート：

高可用性

高可用性を実現するために、次のベストプラクティスを考慮してください。

バックアップを導入

クラスタの作成後も含め、デプロイ構成データを定期的にバックアップすることがベストプラクティスです。これは、2 ノードクラスタの場合、メディエーター構成データがバックアップに含まれるため、特に重要になります。

クラスタを作成または展開した後は、["ONTAP Select Deploy構成データをバックアップする"](#)。

ミラーされたアグリゲート

プライマリアグリゲートの最新の（RPO ゼロの）コピーを提供するためには、ミラーされたアグリゲートが必要ですが、プライマリアグリゲートの空きスペースが不足しないように注意してください。プライマリアグリゲートのスペースが不足すると、原因 ONTAP によってストレージギブバックのベースラインとして使用される共通の Snapshot コピーが削除される可能性があります。これは、クライアントの書き込みに対応するための設計どおりの動作です。ただし、フェイルバック時に共通の Snapshot コピーがないと、ONTAP Select ノードがミラーアグリゲートから完全なベースラインを作成しなければなりません。シェアードナッシング環境では、この処理にかなりの時間がかかることがあります。



NetAppでは、ストレージのパフォーマンスと可用性を最適化するために、ミラーアグリゲート用に少なくとも20%の空きスペースを確保することを推奨しています。ミラーされていないアグリゲートの場合は10%が推奨されますが、ファイルシステムでは追加の10%のスペースを使用して増分変更を吸収することもできます。増分変更を行うと、ONTAPのcopy-on-write Snapshotベースのアーキテクチャにより、ミラーされたアグリゲートのスペース使用率が向上します。これらのベストプラクティスに従わないと、パフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。ハイアベイラビリティイクオーバーは、データアグリゲートがミラーアグリゲートとして設定されている場合にのみサポートされます。

NIC のアグリゲーション、チーミング、およびフェイルオーバー

ONTAP Select では、2 ノードクラスタ用に 1 つの 10Gb リンクがサポートされます。ただし、ONTAP Select クラスタの内部ネットワークと外部ネットワークの両方で、NIC アグリゲーションまたは NIC チーミングを使用してハードウェアの冗長性を確保することを推奨します。

NIC に複数の ASIC（特定用途向け集積回路）が搭載されている場合は、内部ネットワークと外部ネットワークに対して NIC チーミングによってネットワークの構成要素を構築する際に、各 ASIC から 1 つずつネットワークポートを選択します。

NetApp では、ESXi と物理スイッチの両方で LACP モードをアクティブにすることを推奨しています。さらに、LACP タイマーは、物理スイッチ、ポート、ポート チャネル インターフェイス、および VMNIC では、高速（1 秒）に設定する必要があります。

LACP が有効な分散 vSwitch を使用する場合は、ロードバランシングポリシーを、ポートグループでは「Route Based on IP Hash」、LAG では「Source and Destination IP Address」、「TCP/UDP Port」、および「VLAN」に設定することを推奨します。

2 ノードストレッチ HA（MetroCluster SDS）のベストプラクティス

MetroCluster SDS を作成する前に、ONTAP Deploy の接続チェッカーを使用して、2 つのデータセンター間のネットワーク遅延が許容範囲内に収まることを確認します。

Virtual Guest Tagging（VGT；仮想ゲストタギング）と 2 ノードクラスタを使用する場合は、さらに注意が必要です。2 ノードクラスタ構成では、ノード管理 IP アドレスを使用して、ONTAP が完全に使用可能になる前にメディアエーターへの初期接続を確立します。したがって、ノード管理 LIF（ポート e0a）にマッピングされたポートグループでは、外部スイッチタギング（EST）と仮想スイッチタギング（VST）のみがサポートされます。さらに、管理トラフィックとデータトラフィックの両方が同じポートグループを使用している場合、2 ノードクラスタ全体でサポートされるのは、EST と VST だけです。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。